
A病院の透析患者の高齢化に伴う透析通院 における課題と展望

柴田奈津子、佐藤明子、佐藤慶子
JA秋田厚生連 雄勝中央病院

Challenges and prospects in hemodialysis visits for an aging patient population at hospital A

Natsuko Shibata, Keiko Satou, Akiko Satou
JA Akita Kouseiren Ogachi Central Hospital

<緒言>

2022年の日本透析医学会の調査では、慢性透析患者の平均年齢は69.87歳であり、平均年齢は年々増加傾向を示していると報告されている¹⁾。現在A病院の透析患者の平均年齢は67.5歳と全国平均よりはやや下回るが、65歳以上の高齢透析患者の占める割合は6割を超えている。

A病院は市内中心部より離れており、透析通院には車が必要な地域である。公共交通機関であるバスの運行本数も、市内中心部を除くと少ないのが現状である。また、冬は積雪が多く、雪道の運転や通院にかかる時間の延長、車の除雪などの負担も大きい。そのため、A病院では透析患者の高齢化に伴い、通院が困難となる患者が増加することが予測される。

今回、他の透析施設への転院に至った患者及び現在A病院へ通院している透析患者の、通院における背景を明らかにし、今後の課題と展望を見出したいと考え研究に取り組んだ。

<研究目的>

1. 転院患者と現在通院している患者の通院における背景を明らかにする。
2. 通院における今後の課題と展望を見出すことができる。

<対象と方法>

研究デザイン：関係探索研究

期間：2023年4月～2024年10月

対象：①期間内に他の透析施設へ転院した患者20名

②現在A病院に通院する透析患者74名

データ収集方法：患者カルテより情報収集

データ収集内容：①転院患者の年齢、性別、世帯構成、転院先、転院理由、介護度

②現在A病院へ通院する透析患者の年齢、性別、世帯構成、通院方法と距離、介護度

<倫理的配慮>

本研究は所属施設の倫理委員会の承認を得て行った。研究で得られたデータは研究以外では使用せず、外部に漏洩しないよう厳重に管理した。また、研究対象者の個人情報の保護を徹底し、個人が特定できないよう配慮した。

<結果>

期間内に他施設へ転院された患者は20名であった。20名中、17名が65歳以上の高齢者であり、そのうち10名が後期高齢者だった（図1）。家族構成は、単身4世帯、最も多かったのが二人家族7世帯、次いで三人家族5世帯、四人以上の家族は4世帯であった（図2）。単身世帯はすべて男性であり、キーパーソンは別居の娘や身元保証サービス利用の患者であった。二人家族の世帯構成は親（患者）と子、そしてキーパーソンが息子である世帯と高齢者世帯でキーパーソンが妻である世帯がそれぞれ3世帯だった。また、三人家族の世帯構成も親と子のみの世帯と高齢者世帯が合わせて5世帯だった。転院患者の通院方法は自分の運転が8名と最も多く、家族の送迎が4名、公共交通機関が2名だった。通院歴なしの5名は入院により透析導入となった患者であった（図3）。

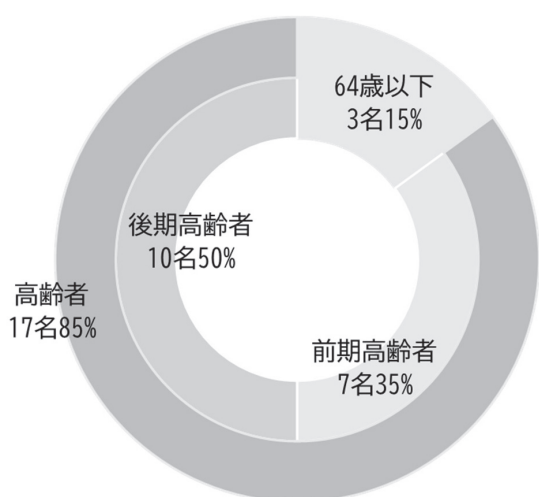


図1 転院患者の年齢

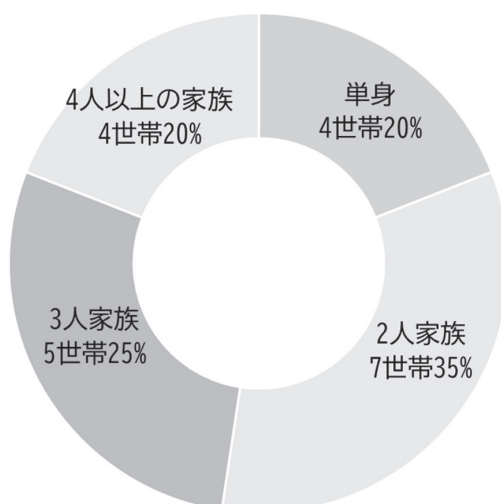


図2 転院患者の家族構成

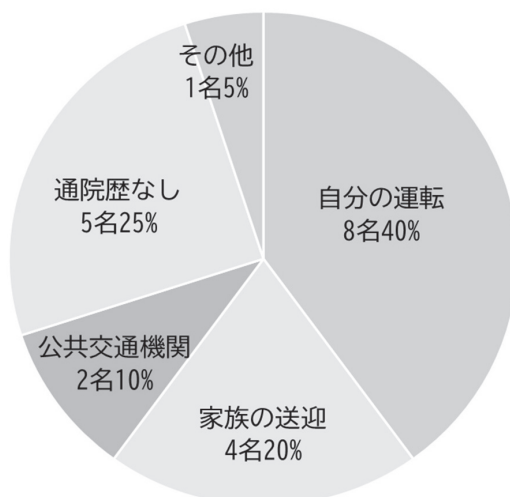


図3 転院患者の通院方法

介護認定を受けていた患者は8名で、半数以上は認定を受けていなかった。転院先は送迎サービスのあるクリニック2施設に14名、長期入院可能な病院2施設へ3名、自宅から近い医院へ2名、入所施設近くの病院へ1名が転院した（表1）。転院理由は、運転の不安10名、ADL低下による通院困難が6名、家族の負担軽減4名であった。運転の不安を訴えた患者からは、「年も年だし免許を返納して送迎してくれるところをお願いします。」「雪道の運転など家族が心配するので自宅近くの病院へ行きます。」などの言葉が聞かれ、高齢による運転への不安や家族に心配されている事が理由であった。ADL低下により通院困難となった患者家族からは、「歩けなくては病院まで連れてこられない。」「体力に自信がなく一人で暮らせないが入れる施設が見つからない。」という言葉が聞かれ、介護力の不足や施設入所が難しいなどの理由で転院となった事例もあった。家族の負担軽減を望む患者からは、「バスの本数も少なく、家族に送ってもらわないと病院に来られない。」「高齢な妻に送迎させるには限界がある。」など、公共交通機関の不便さや高齢の家族を気遣う言葉が聞かれた（表2）。

表1 転院施設数と転院人数

送迎サービスのある施設	2施設	14名
長期入院可能な病院	2施設	3名
自宅から近い医院	1施設	2名
入所施設から近い病院	1施設	1名

表2 理由別転院患者数とその詳細

運転の不安	10名	高齢なので免許を返納して送迎してくれるところにする 雪道など家族が心配するため自宅近くの病院にする
通院困難	6名	歩けないので家族は連れてくる事ができない 体力に自信がなく一人暮らしできないが施設が見つからない
家族の負担	4名	バスが少なく家族の送迎がないと通院できない 高齢の配偶者による送迎に限界がある

現在A病院へ通院している患者は74名であり、65歳以上の高齢者は約64%、75歳以上の後期高齢者は約26%だった（図4）。家族構成は二人家族が約35%と最も多く、配偶者と二人が約42%、その中でも高齢者世帯が75%を占めていた（図5）。キーパーソンは配偶者が約41%と最も多く、次いで子が約28%、兄弟約22%であった。配偶者のうち高齢者は70%を占めていた。通院方法では自分の運転が約55%、家族の送迎31%、公共交通機関が約8%であった。自分の運転で通院する患者の約51%が高齢者であり、最高年齢は83歳と後期高齢者であった。また、送迎する家族の約83%が高齢者であった（図6）。通院距離は10kmを超える患者が約42%であり、最も遠かった患者は30kmであった（図7）。また、通院患者の約85%は介護認定を受けていなかった。

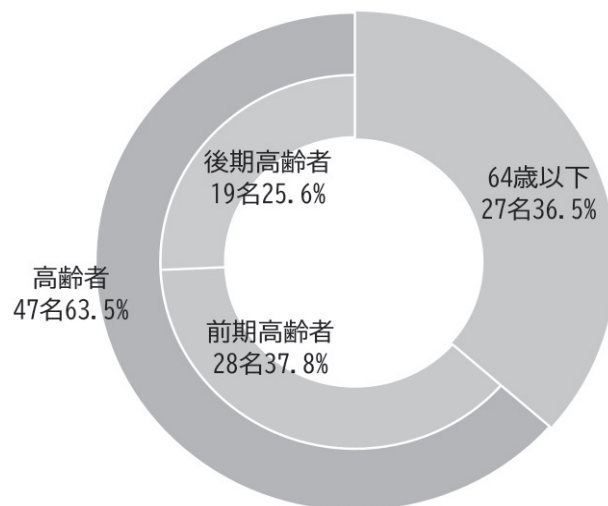


図4 通院患者の年齢

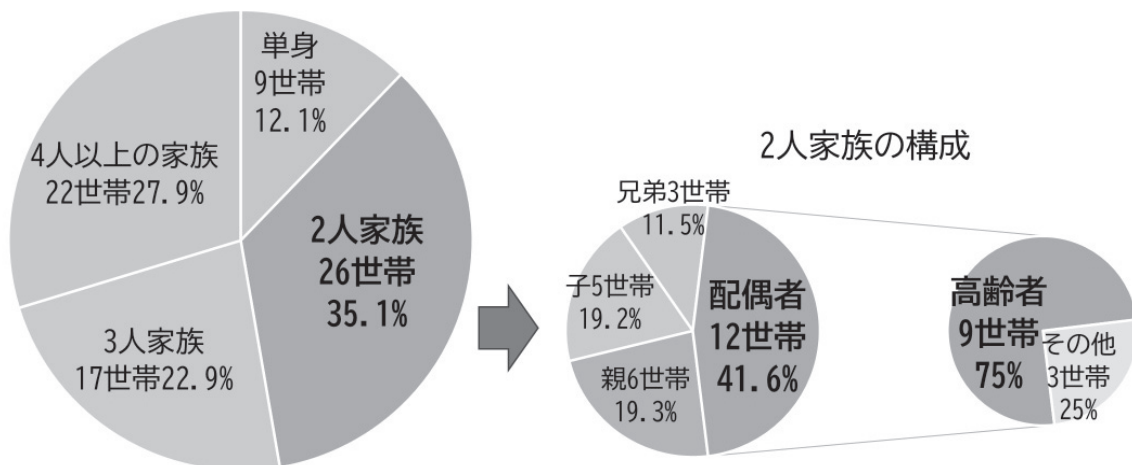


図5 通院患者の家族構成

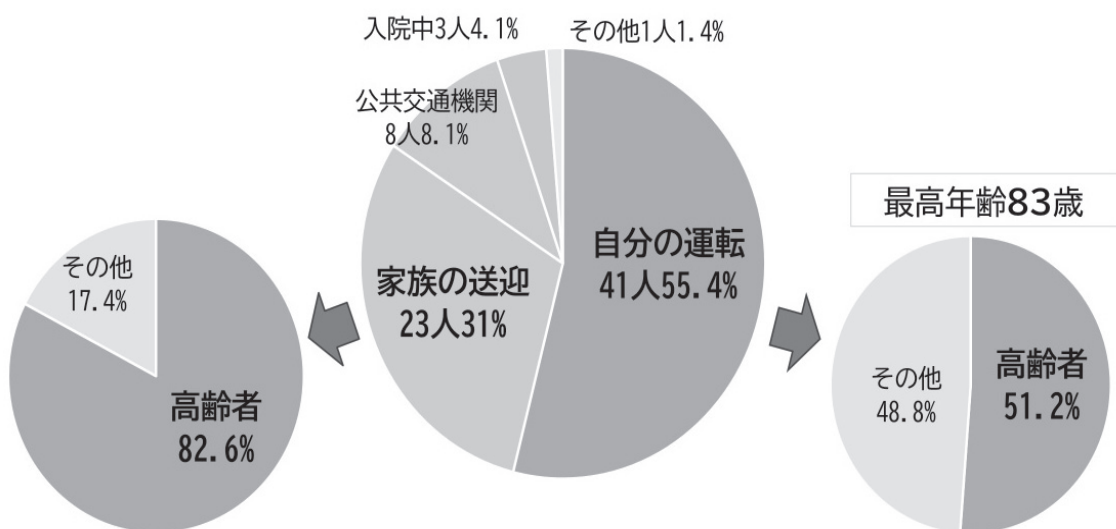


図6 通院患者の通院方法

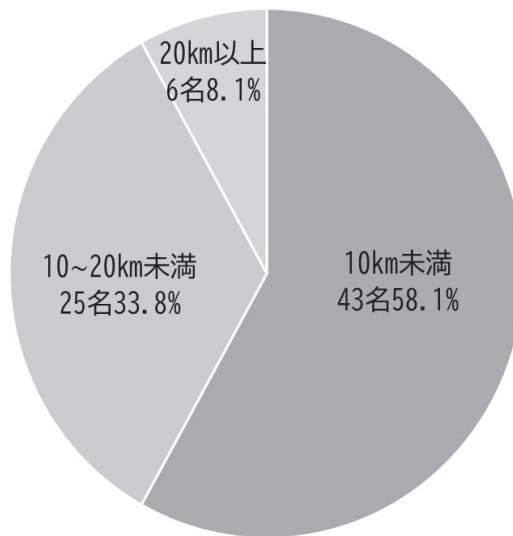


図7 通院患者の通院距離

<考察>

転院した患者のうち17名、85%が65歳以上の高齢者である。現在A病院に通院している患者の約64%が高齢者である。加齢により運転能力は低下するため、今後も「運転の不安」を訴える患者は増加することが予測される。また、送迎する家族も高齢な配偶者が多く、患者の通院や生活を維持するためには、配偶者など家族の状況も把握する必要がある。入室時間の遅れや入退室時の状態などの観察により、家族やキーパーソンへの情報提供や送迎サービスのある透析施設の案内などが必要であると考え。また、通院している患者の86.4%が自分又は家族の運転での通院となっている。通院距離が10kmを超える患者が多く、かかる時間は20分以上となる。冬期間の通院は時間の延長や積雪による負担も増大する。A病院の近隣の透析施設で送迎サービスがあるのは2施設であり、今後、患者の通院を支援するためには、地域の理解と協力が必要となる。透析患者の現状を病院全体の問題として捉え、市町村やバス、タクシー事業所の協力を得るなど継続的に取り組んで行く必要があると考える。

鈴木²⁾は「高齢者に限らずとも、透析患者のADLは一般高齢者よりも明らかに低下しており、高齢透析患者ではその低下はさらに明瞭である」と述べている。通院している患者のうち介護認定を受けている患者は少ない。しかし、65歳以上の高齢者が多い現状からは、身体能力や認知機能の低下による要介護状態への移行が予測される。生活状況の把握から、家族への介護福祉に関する情報提供を行い、ソーシャルワーカーやケアマネジャー、地域包括支援センターなど第三者の介入により患者家族を孤立させない支援が必要であると考え。透析患者の施設入所においては、病態の不安定さや通院の問題から受け入れ困難な事例もあった。透析患者に関する知識や情報の不足が原因であり、地域の介護福祉施設への働きかけが必要であると考え。

<結語>

1. 転院患者の転院理由は「運転の不安」「ADL低下による通院困難」「家族の負担軽減」であり、通院患者の今後の課題となる。

-
2. 透析通院の通院状況や家族状況を把握し、必要な情報提供と第三者の介入が重要である。
 3. 地域に対し透析に関する情報提供や通院状況の報告など、継続的な働きかけが必要である。

<利益相反>

本論文に関して開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。

<引用文献>

- 1) 日本透析医学会：わが国の慢性透析療法の現況、
<https://www.jsdt.or.jp/dialysis/2227.html>
- 2) 鈴木正司：高齢者施設で生活する透析患者の実態、臨床透析Vol.40 No.9：7-9、2024.

<参考文献>

- ・栗林静香、高橋恵美子、後藤美樹：血液透析患者の通院を困難にする要因、秋田腎不全研究会誌 Vol.21 November：64-72、2018.
- ・太田圭洋：高齢および要介護透析患者の療養の実態と問題点、日本透析医会誌Vol.29 No.3：342-345、2014.
- ・山川智之：通院困難な血液透析患者の諸問題、腎と透析Vol.86 No.6：764-768、2019.